

『災害があっても命を守り抜くために』

ハザードマップ作りや防災について悩んでいる方に贈る、課題解決のための一冊!

ハザードマップで 防災まちづくり

— 命を守る防災への挑戦 —

東京大学大学院情報学環特任教授 片田敏孝 著

○A4判 ○184頁 ○定価(本体3,000円+税)

ISBN978-4-8090-2475-7 C3036 ¥3000E



かた た とし たか
片田 敏孝

東京大学大学院情報学環特任教授
群馬大学名誉教授

著者略歴

岐阜県生まれ。専門は災害社会学。災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。また、内閣府中央防災会議や中央教育審議会をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、研究成果を紹介しながら防災行政の推進にあたっている。

「どうしたらハザードマップを見てもらえるのか」
「どうしたら危険性を正しく理解してもらえるのか」
数々の課題に応える創意工夫の成果が、このハザードマップだ!! 5分類12事例登載!

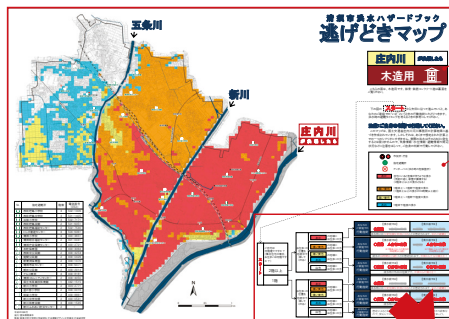
清須市の「逃げどきマップ」の読み取りから、避難行動の判定までの流れを示すと、次のようになります。

①マップは両面になっています。判定したい建物の構造(木造又は鉄骨・鉄筋コンクリート造)に応じたマップ面を参照します。

②次に、自宅や職場など、調べたい場所が

③判定フローでは「」から順に見ていきます。まず、」が知りたい建物が何階建てなのかを選び(集合住宅の場合は居住階)、該当する矢印に沿って進みます。②で既に確認しているマップ上で示された色の矢印に沿っていくと、行動指針にたどり着きます。

④たどり着いた行動指針は、周辺の浸水状



建物構造ごとにマップを作成すると、判定フローの条件分岐を減らすことができます。

想定浸水深と予想される被害を記載しており、災害イメージしやすいように工夫

早めの避難が必要なのか、あるいは自宅に待機することが可能なか、判定フローを用いて、住居構造や居住地域ごとに行動指針を示している。

愛知県
清須市
の例

【図11】 庄内川の逃げどきマップ(木造用)と判定フロー



【写真2】 住民懇談会の様子

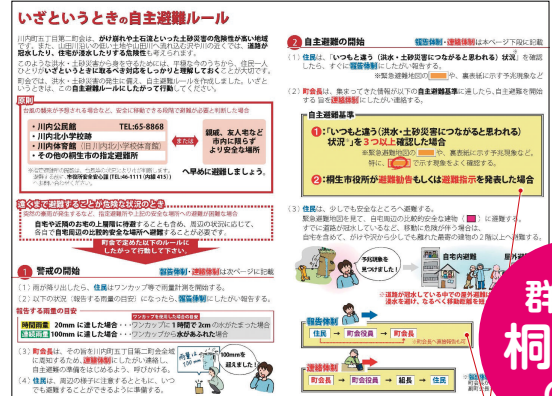
(住民懇談会では、土砂災害(特別)警戒区域の分布状況を確認しながら、自主避難基準となり得る「地域固有の予想現象」や「大雨が降ったときに見られる予想現象」を設定したほか、その際に命の危険を最小限にする観点で(緊急)避難場所を検討しました。

詳細は
こちら!



【図22】 ハザードマップの表紙

- ・目を引く奇抜な色合い
- ・ハザードマップに掲載されている内容の大項目を明示
- ・住民懇談会の写真を掲載し、住民自身の検討成果として取りまとめたハザードマップであることを強調
- ・A4判冊子の形式/全8ページ



- ・地区独自で設定した土砂災害の警戒基準と自主避難ルールを明示し、住民一人ひとりとるべき対応を明確化
- ・住民間の情報共有を円滑にするため、報告・連絡体制を検討し、その流れを明示

【図23】 自主避難ルール

群馬県
桐生市
の例

内容見本

東京法令出版

ハザードマップ作りを通じ 命を守るための本質と課題を徹底解説!!

目次

はじめに(抜粋)

「災害があっても命を守り抜く」

1997年(平成9年)から防災研究者として活動してきた私の目的は何かと問われれば、一点の曇りもなく明確にそう答えます。命を守り抜く、すなわち自然災害で人が死なないために、防災研究者として何ができるのか、防災はどうあるべきなのかを考え、悩み、行動し、疑問にぶつかり、また考える。その積み重ねで防災現場と向き合ってきました。

ハザードマップとして形になるものは、単なる広報配布物であり、ただか印刷物あるいはインターネット上のデータにすぎません。その目的は、災害時の避難行動の促進と住民の防災意識の啓発を図ることですが、ハザードマップだけでそれを議論するには限界があるのも事実です。その前提に立った上でも、私の防災研究者としてのアウトカムは、純粋に、そして明確に、「災害があっても人が死なない」ということです。そのために何が有効なのか、何が現状の問題なのかをいつもいつも考えながら、その都度問題解決に挑戦し、具体化してきたのが、私にとってのハザードマップなのです。

最新情報はこちらから!

東京法令

検索



東京法令出版公式 Twitter アカウント

@tokyo_horei



第I部 ハザードマップとは何か。命を守るための本質と課題

第1章 ハザードマップの意味と変遷

そもそもハザードマップとはどのようなものなのか

ハザードマップを考える上で見逃せない法律

水防法とハザードマップの変遷

努力目標として位置づけられたハザードマップ

義務化されたハザードマップの作成・周知

津波の追加とL2想定と住民目線でのハザードマップ

施設では防ぎきれないというスタンス

第2章 ハザードマップを作成・理解する上で心に留めておきたい前提

地球規模で警鐘を鳴らす荒ぶる自然

豪雨災害対策・これまでの弊害

災害過保護～行政依存の住民意識～

災害をめぐる住民と行政との関係

アメリカとキューバに学ぶこれからの日本の防災

第3章 本質は、リスク・コミュニケーションツール

一方的なインフォメーションツールではない

犠牲者を出さないためのリスク・コ

ミュニケーションツール

問われる行政の主体性

第4章 ハザードマップが効かない。最初にぶつかった現実

調査1 被災経験のあるまちでの全国に先駆けた洪水ハザードマップ検証

第5章 なぜ人は、避難しないのか。どうしてハザードマップは利用されないのか。

避難しないのではなく、避難できない人の特性、「正常化の偏見」と「認知的不協和」

ハザードマップが利用されない背景

受け身の自助が情報を閉ざす

真の敵は自然災害ではない

第6章 リスク・コミュニケーションツールとしてのハザードマップの課題

①災害リスク情報を取得し、避難する住民の主体性を引き出す

②災害イメージの固定化、安全情報との誤解を回避する

③作って終わりではなく、作ってからが始まり! 使い方を考え、コミュニケーションツールとして活かす

④地域の特性を踏まえて災害リスク情報を提供する

第II部 命を守るためのハザードマップ作りへの挑戦と葛藤

フェーズ1 諦めたくなかった。災害イメージの固定化を崩し、情報取得の主体性を育むことに挑む。最初の挑戦!「概略表記型ハザードマップ」

実践事例1 岐南町洪水ハザードマップ

実践事例2 扶桑町水害対応ガイドブック

フェーズ2 地域の特徴を表現することに注力した「気づきマップ」

実践事例3 清須市ハザードマップ

実践事例4 岡崎市水害対応ガイドブック

実践事例5 北九州市防災ガイドブック

フェーズ3 避難行動の主体性促進に挑戦した行動指南型「逃げどきマップ」

実践事例6 清須市ハザードマップ

実践事例7 三条市豪雨災害対応ガイドブック

フェーズ4 これからの避難に避けられない視点。広域避難とL2想定に挑戦したハザードマップ

実践事例8 戸田市ハザードマップ

実践事例9 新宮市津波ハザードマップ

フェーズ5 避難できない人間の性を打ち破りたい!! 住民が作成に参画する、主体的な行動マップへの挑戦

実践事例10 桐生市土砂災害緊急避難地図

実践事例11 戸田市緊急避難場所マップ、まかせて会員・おねがい会員

実践事例12 北九州市みんな de Bousai まちづくり推進事業

申込書

ハザードマップで防災まちづくり

定価(本体3,000円+税) [コード13503]

申込

部

(本書の送料はサービスとなります。)

貴社の個人情報に関する下記取扱いに同意し、上記のとおり申し込みます。

(フリガナ)

お取扱者(自署)

(TEL - -)

〒
お届け先住所

団体名

部署名

☐ 公用
☐ 私用

個人情報の取扱いについて 東京法令出版株式会社 個人情報保護管理者 専務取締役

★お客様の個人情報は、契約の履行及び関連製品の案内に利用します。

★本人の同意がある場合又は法令に基づく場合を除き、第三者に提供しません。

★利用目的の達成に必要な範囲内で取扱いの一部を委託することがあります。

★本人からの個人情報の利用目的の通知・開示・内容の訂正・追加又は削除・利用の停止・消去の求めに応じます。

★個人情報に関するご照会・お問い合わせ等は、弊社窓口(TEL 026-224-5441、privacy@tokyo-horei.co.jp)までご連絡ください。

★お申込みには個人情報の提供が必要です。提供いただけない場合は、お申込みをお受けできないことがあります。

この申込書は、このままFAXで下記宛にお送りください。

■申込先

東京法令出版株式会社 受注センター

〒381-0022 長野市大豆島3111

FAX 0120-338-923

TEL 0120-338-272

(携帯電話からもお申込みできます。)

会社使用欄	団体コード	得意先コード	在庫	ラベル	〒	☐ 納品済 ☐ 請求済 ☐ 領収済	入力印 チェック
-------	-------	--------	----	-----	---	--	-------------